

## 第26章 地域編②：マンダレー地域

### 1. 地域概要

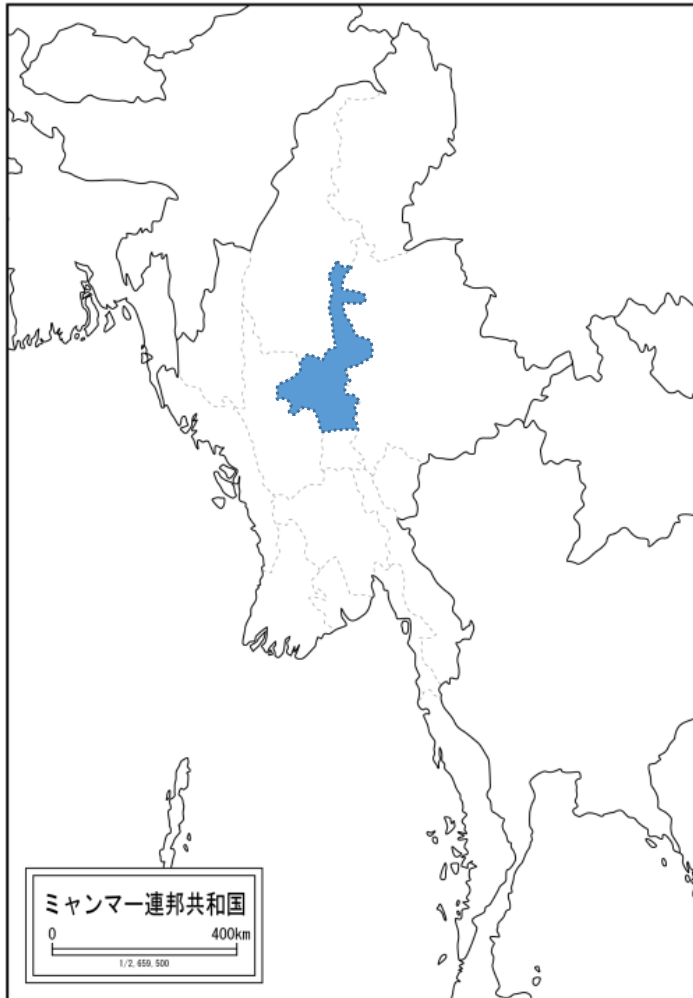
#### ①マンダレー地域概要

マンダレー市は、ミャンマーの中央に位置し、ビルマ最後の王朝が存在した都市である。マンダレー市は、2015年5月公表2014年国勢調査によると約172万人（マンダレー地域全体としては約616万人）の人口を有し、ヤンゴン市に次ぐミャンマー第2の商業都市である。英国の植民地になる前までは、政治・経済・歴史・文化の中心はマンダレー地域であったが、現在では政治の中心はネーピードー、経済はヤンゴン、歴史と文化はマンダレー周辺地域と位置付けられている。



マンダレーヒルから見たマンダレー市の景色

図表 26-1 マンダレー地域の地図



## ②日系企業進出動向

民政移管後、以下のような大手企業による現地の進出が行われている。2018年5月時点におけるマンダレー地域の日本人居住者は30名程度であるが、日本人会はまだ組成されていない。

2014年に㈱JALUX、三菱商事㈱、現地大手企業グループであるSPAグループのYOMA DEVELOPMENT GROUP LIMITED社の3社コンソーシアムは、ミャンマー政府とマンダレー国際空港の30年間の事業譲渡契約を締結し、3社合弁により設立されたMC-Jalux Airport Services Co., Ltd.社が2015年より同空港の運営を開始している。本件は、日本企業が海外において100%民間資本で取り組む空港事業民営化プロジェクトとして着目されている。

2015年には、㈱小松製作所が建設・鉱山機械のコンポーネントの再生販売及び発電機の製造・販売を行うため現地に設立した子会社の事業を開始している。

また、2017年12月には、キリンホールディングス㈱によるミャンマーの大手ビール企業マンダレー・ブルワリー（Mandalay Brewery）の買収が公表されている。

## (2) 進出日系企業からみた事業・生活環境やコスト

### ①インフラ・物流

#### 【移動手段】

マンダレーにおける日本人の交通手段としては専ら自動車になる。ヤンゴン市内と異なり、市中をまわるバスはまだ整備されていない。また、4輪車のタクシーは無く、タクシーはバイクタクシーが一般的である。数はまだ多くないが最近では3輪タクシーも登場している。鉄道はあるが、便数が少なく、遅延が多いと言われ利便性が低い状況にある。

現地住民の交通手段としては、自動車とバイクが定着している。交通渋滞はあまり無く、ヤンゴン市内と比較して通勤時等の渋滞によるストレスは無い。

ヤンゴンとマンダレー間は、毎日数便飛行機が就航しており、所要時間は1時間半程度となっている。同区間の移動には昼行バスと夜行バスもあり、所要時間は9時間～10時間程度で現地住民に広く利用されている。

#### 【空港】

マンダレーの玄関は、マンダレー市の中心部から南西約35kmに位置するマンダレー国際空港である。同空港は、タイの借款によりタイ大手建設会社が建設した空港であり、2000年に開港している。前述のとおり、本空港は、(株)JALUX、三菱商事(株)、現地大手企業グループであるSPAグループのYOMA DEVELOPMENT GROUP LIMITED社の3社合弁により設立されたMC-Jalux Airport Services Co., Ltd.がミャンマー政府より30年間の事業譲渡を受け、2015年より同社による運営が開始されている。

マンダレーと日本との間の直行便は就航しておらず、飛行機で移動する場合にはヤンゴン経由あるいはバンコク経由での移動となる。マンダレーとヤンゴン間、バンコク間はいずれも毎日複数便運航している。

ミャンマー運輸・通信省の民間航空局(DCA)によると、2017年における同空港の利用者数は国内線利用者が89万人、国際線利用者数が43万人の計132万人となっている。

#### 【電力】

停電は毎日10回以上発生するため、工場・ショッピングセンター・ホテル等において、自家発電設備が必須の設備となっている。電圧は200～240Vであるが、電圧が安定しないため、日本製の電化製品を使用する場合にはスタビライザー機能が付いている変圧器を使用することが必須である。家電はタイ製品が市中に多く出回っており、最新設備付で無くては問題無ければ概ね全ての電化製品を現地で調達することが可能である。

#### 【通信】

ネット環境は年々改善されてきているものの、速度・容量の関係で制約がある状況である。例えば、東京側でセットされたビデオ会議に参加する際等スムーズな対応ができないことが日常的に存在し、まだまだ不十分であると現地では認識されている。

**【不動産】**

ホテルの宿泊料やコンドミニアムの賃料もヤンゴンよりは安い。但し、ヤンゴン市の不動産市況が最近下がり始めているのに対して、マンダレー市は上昇傾向にあり、近似してきている傾向がある。

マンダレー南部のアマラプラ郡区において、マンダレーの近代化を後押しすべく、地場企業のマンダレー・ビジネス・キャピタル・シティー・デベロップメントが主導し、イラワジ川沿い約 8 平方キロメートルを超える用地にホテルや病院、学校、住居棟、商業施設を擁する「アマラプラ都市開発事業」が行われている。開発期間は 10 年、初期投資額は 5 千億チャットである。

**【水】**

マンダレー市では、市全体の上水道普及率は約 67%に達している。しかしながら、飲料水としては適切ではなく、現地では水道からの水を飲むことは避けている。生活用水として用いることには問題ない。

近年の急速な人口増加や商業施設等の建設により発展が始まったマンダレー市南部の上水道普及率は約 6%に止まっており、JICA が 2015 年に 25.55 億円を上限とする無償資金協力の贈与契約をミャンマー政府と締結している。本事業は、マンダレー市南部ピジータゴンタウンシップの上水道施設整備及び同市の既存上水道施設への塩素消毒施設の導入を行うことにより、地域住民の保健衛生状況の改善に寄与することを目的としている。また、JICA は本事業に加え、北九州市上下水道局と草の根技術協力「ミャンマー・マンダレー市における上水道運転管理能力の向上事業」を実施している。

**②労働事情****【人材】**

2014 年の国勢調査によると、マンダレー地域の総人口 616 万人のうち、15～64 歳までが 418 万人と約 68%の人口が生産人口により占められている。同生産人口の失業率は 3.1%と低水準である。うち、マンダレー市内では総人口 172 万人のうち、生産人口は 123 万人と 72%を占め、同失業率は 2.7%となっている。

ミャンマー国内で優秀な人材は一般的にヤンゴンで職探しをする傾向があるため、ヤンゴンでの採用活動と比較して、優秀な人材の確保が難しいという点がある。

採用方法としては、人材紹介会社の Web を通じた募集や、空港の掲示板に掲載する等の方法により募集が行われている。日系企業がオフィスワーカーに求めるスキルとしては、日常会話程度の英語と PC スキルを前提とした採用活動が行われている。現場の労働者クラスでは基本的に英語を話すことはできないため、英語話者を通じたコミュニケーションあるいはミャンマー語との通訳を雇うことによるコミュニケーションを確保している。

マンダレー地域はヤンゴンと比較すると外資企業がまだ少なく、他社に好条件を提示され引き抜かれるといった事例はまだ少ないものの、企業への定着率を高めるために、日系企業では定期的に従業員との食事会を行ったり、近隣諸国の関連セミナーに参加する機会を提供したり、各種の表彰制度を設けたり等々の工夫を各社で実施している。

ミャンマー人は就職するまで銀行口座を保有していないケースが多く、給料も給料日に手渡しで受け取る慣習が依然として存在しているが、日系企業では従業員の採用時に現地の銀行に口座を開設してもらい、振込みにて給料の支払いを行う方法が採用されている。

#### 【賃金】

ミャンマー政府は 2018 年 5 月 14 日に最低賃金を従来の日額 3,600 チャットから日額 4,800 チャットに引き上げる旨公表し、同日より実施されている。ミャンマー政府は、最低賃金の引き上げを監視する委員会をヤンゴンとマンダレーに設置し、最低賃金の不払いや不当な手当打ち切り等の事案に対処する方針である。技術職の給料水準は毎年物価上昇率程度のベースアップを行っている企業が多い。

#### 【金融】

ミャンマーにおける邦銀の進出地域は、ヤンゴンに集中している。マンダレー地域には邦銀の支店はないため、邦銀より融資を受ける際はヤンゴンに出張して対応する必要がある。但し、近年地場銀行によるドルの取り扱いも開始されている。

### ③生活環境

#### 【気候】

マンダレーの主な気候の特徴として、5～10月の雨季・11～2月の乾季・3月と4月の暑季の3つの季節に区分される。

雨季は熱帯特有のスコールによる降雨もあり、気温も 35 度以上になる日が多く、非常に蒸し暑い季節である。乾季は気温も下がり内陸からのモンスーンの影響により降雨量も少なくなる。暑季は、最も気温が高い 4 月の平均最高気温は 38 度を超えるほどに高くなり、また降雨も少なく比較的乾燥する。

#### 【教育】

マンダレー地域には日本人学校はない。英語教育を行っているインターナショナルスクールは存在しているが、2018 年現在ではマンダレー市の外資企業の数が多いこと、また海外からのマンダレーへの赴任者が単身にて赴任するケースが多いことより、同インターナショナルスクールは現地の富裕層の子女向けの学校という位置づけになっている。

**【医療】**

City Hospital が英語対応可能な病院として日本人駐在員に利用されている。但し、医療水準が低いこと、診察料も風邪で 5,000 円～1 万円程度と高額であり、待ち時間も発生するという難点が多い。何かしら病気の懸念がある場合には、バンコクの病院に行くことが現地における一般的な認識になっている。

**【治安】**

マンダレー市もヤンゴン市同様に近隣諸国の都市と比較して治安は良い。マンダレー市はミャンマーの中心に位置することもあり、近隣諸国との紛争に関する危険性もない。イスラム系住民に係る問題についても、マンダレー地域とは別問題としての捉え方がミャンマー人の中での一般的な考え方となっている。

**【住居】**

日本からの赴任者の住居は、市内に唯一存在する外国人向けコンドミニウムが一般的である。家賃（月額）は、単身での赴任者向けでも 2018 年 5 月現在で 2,500～3,000 ドル程度となっている。物件を探す際は不動産業者経由で探すのではなく、自ら知人を頼ってその人脈により住みたい物件の所有者を特定し、個別交渉をするという形態にて住居探しをする必要がある。賃料は基本的に 1 年間の前払いを求められるケースが多いが、交渉により半年間毎の前払い、あるいは 3 ヶ月間毎の前払いにできるケースもあるようである。

**【食事】**

マンダレー市内には和食レストランが 3 店舗ある。いずれもタイ資本あるいは現地資本であり、日本人経営の和食レストランはまだない。



ビルマ料理

【レジャー】

日本人駐在員が利用するゴルフ場は3つある。毎年4月中旬に開催される「水かけ祭り」が地域最大のイベントである。マンダレー市はミャンマーにおける古都にあたり、王宮やマンダレーヒルといった多くの観光資源がある。



マンダレー王宮



歴史的な木造建築の寺院

## 2. 主要工業団地

マンダレー地域における歴史ある工業の集積地であるマンダレー工業団地(Mandalay Industrial)が空港から北東に約 20 kmの距離にあり、日系企業による事業も行われている。

また、ミャンマー資本によるミョータ工業団地(Myotha Industrial park)が空港の西側約 72km の場所に建設されている。工場・倉庫だけでなく、住居や商業施設を含んだ街をつくるプロジェクトとして進行している。2018年5月現在、外国資本の企業による投資が急増し、順次工場が稼働している。

No.	工業団地名	総開発面積
1	Mandalay Industrial(Zone1 Zone2)	501.5 ha
2	Myotha Industrial park	4,452 ha